

総合開館 30 周年記念

TOP コレクション トランスフィジカル

TOP 30th Anniversary

TOP Collection: transphysical

2025 年 7 月 3 日(木)―9 月 21 日(日)



東京都写真美術館は、平成 2（1990）年の一次施設開館を経て、平成 7（1995）年に日本唯一の写真と映像の総合的な専門美術館として総合開館しました。総合開館 30 周年となる 2025 年は、「総合開館 30 周年記念」と題した展覧会や関連イベントを多数開催し、1 年をとおして写真・映像の未来をさまざまにじっくりと考えます。

総合開館 30 周年を記念した TOP コレクション展は二期にわたって開催します。第一期「不易流行」に引き続き、第二期となる本展は学芸員 4 名の共同企画によるオムニバス形式で、多角的な視点から当館コレクションを選び、写真と映像の魅力をご紹介します。

本展のタイトルは「トランスフィジカル」。フィジカルには「物質的」「身体的」という意味があります。モノとして存在する写真の「物質性」や、被写体や作家自身の「身体的表現」に着目します。さらに、「トランス」という接頭辞は、対象がそのもの自体から、別の形態や位置へ移動していくプロセスや行為をさします。総合開館 30 周年という節目の年に、これまでのコレクション作品のあらたな読み解き方を紹介し、イメージがつけられていくその豊かな過程へ目を向けます。デジタル化が進む現在の写真・映像の在り方に、当館の珠玉の名作が鮮やかな一石を投じます。

左：小本章《90-23》〈Seeing〉より 1990 年 銀色素漂白方式印画

右：安村崇《湯かき棒とゴム手袋》〈日常らしさ〉より 1999 年 発色現像方式印画 （共に第 3 室に展示）

TOP コレクション展について

1986年に第二次東京都長期計画で「写真文化施設の設置」が発表され、東京都写真美術館は1988年より作品収集を開始しました。学芸員の調査研究に基づき、これまでに収集された作品数は約38,000点を超えます*。TOP コレクション展は、黎明期から現代まで写真・映像史を網羅するような、東京都写真美術館の体系的なコレクションの中から、特定のテーマに沿って作品を厳選することで、写真・映像文化への理解を深め、時代を超えて語り継がれる優れた写真・映像作品を紹介する重要な場として、毎年開催しています。*38,759点（令和7年3月31日現在）

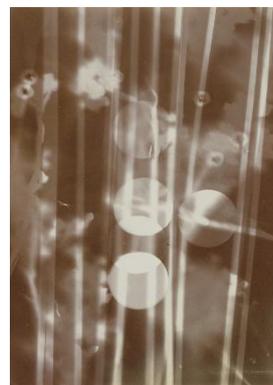
本展のみどころ

4人の学芸員による多彩なテーマ

本展は4名の学芸員が共同で企画するオムニバス形式の展覧会です。初期写真から出発して写真と絵画の関係性を探る「第1室 撮ること、描くこと」、「踊り」という身体表現による衝動と社会性に迫る「第2室 dance」、色で広がる視覚表現を体感する「第3室 COLORS」、コンセプチュアル・アート*に影響を受けたステージド・フォトグラフィと実験的なビデオアートを取り上げる「第4室 虚構と現実」、デジタル時代において写真の物質性とオリジナルプリントの価値を問い直す「第5室 ヴィンテージと出会うとき」と多彩な5つのテーマで構成。38,000点を超える多彩な収蔵作品の中から選りすぐりの名品を通じて、写真・映像の歴史や社会との関わりを振り返るとともに、過去の表現を現在の視点で見つめ直し、現代における表現の在り方を考えます。*コンセプチュアル・アート(概念芸術)：1960年代に登場した、物質的な表現よりも背後の概念や着想に重きを置く芸術

貴重なオリジナルプリントが一堂に会す

当館ならではの“お宝”とも言える貴重な作品を多数紹介。第1室では、世界最古のカラー写真《アジャンの風景》(1872年)を、第5室では、モホイ＝ナジの貴重なフォトグラムや、万延元年(1860年)に撮影された《野々村忠実像》、明治初期に活躍した河野浅八の作品などを公開します。コピーが容易な現代だからこそ、写真が持つ「唯一性」や「物としての魅力」を改めて実感できる展覧会です。



ラーズロー・モホイ＝ナジ《無題》1922年
ゼラチン・シルバー・プリント

アーウィン・オラフを初展示

第4室では、KYOTOGRAPHIE 2021(京都)で注目を集めたオランダの写真家アーウィン・オラフの作品を、東京都写真美術館で初めて展示します。新型コロナウイルスのパンデミック下における自主隔離の様子をとらえた写真と映像作品〈エイプリルフール〉(2020年)*のほか、〈Im Wald〉シリーズ*から、絵画のように構成された大型作品も出品します。*すべて作家蔵

主な出品作家

アンセル・アダムス／ウジェーヌ・アジェ／アンリ・カルティエ＝ブレッソン／ルイ・デュコ・デュ・オーロン／ウィリアム・エグルストン／ロバート・メイプルソープ／アーウィン・オラフ／ゲルハルト・リヒター／シンディ・シャーマン／チェン・ウェイ／石原友明／出光真子／今井壽恵／岩根愛／瑛九／エキソニモ／オノデラユキ／川内倫子／小本章／小山穂太郎／鈴木のぞみ／田口和奈／多和田有希／東松照明／内藤正敏／野村佐紀子／浜田涼／細倉真弓／森村泰昌／安村崇／山沢栄子／山城知佳子／山本糾 ほか

本展の構成

第1室 撮ること、描くこと

19世紀に新たな視覚メディアとして誕生した写真は、その誕生直後から、はるかに長い歴史を有する絵画とたびたび比較されてきました。現代に至るまで、写真と絵画は互いに影響を与え合い、密接な関係を持ち続けています。第1室では、最初期のカラー写真や、絵画と見まがう彩色のほどこされた写真、写真家による絵画、絵画的な画面構成によって制作された写真など、複数の視点から作品を紹介し、写真と絵画の関係を考えます。

[企画] 遠藤みゆき (展覧会実績: 「TOP コレクション 何が見える? 「覗き見る」まなごしの系譜」(2023)、「見るは触れる 日本の新進作家 vol.19」(2022)、「マジック・ランタン 光と影の映像史」(2018) ほか)



1-1



1-2



1-3



1-4

1-1: ルイ・デュコ・デュ・オーロン《アジャンの風景、木と水の流れ》1872年 エリオクロミィ 1-2: 石原友明《U.S.P 13 #05》2013年 ゼラチン・シルバー・プリントにオイルパステル、油彩 ※2024年度新規収蔵作品

1-3: 日下部金兵衛《風にあおられる着物》1881-1912年 横浜写真アルバム 1-4: ウジェーヌ・アジェ《(木)》1910-20年 油彩・キャンバス (厚紙に貼付)

第2室 dance

第2室では、「踊る」という行為が持つ多層的な意味に目を向けます。個人が自らの感覚を解き放ち、高揚した空気に身を委ねる瞬間には、人間の根源的な衝動が垣間見えるのかもしれませんが。こうした熱量は、ときに社会を動かす原動力ともなり得ます。人々が集い、身体を動かし、声を上げ、自らの想いを表現する「踊る」という行為は、時代や目的に応じて形を変えながらも様々な側面をみせてくれるでしょう。

[企画] 山崎香穂 (展覧会実績: 「TOP コレクション 不易流行」(2025))



2-1



2-2

2-1: 山城知佳子《OKINAWA 墓庭クラブ》〈墓庭シリーズ〉より 2004年 シングルチャンネル・ビデオ 2-2: チェン・ウェイ《In the Waves #5》2013年 インクジェット・プリント 2-3: 岩根愛《KIPUKA》2018年 発色現象方式印画 2-4: 細倉真弓《Dance (10 times extended EDM)》2017年 シングルチャンネル・ビデオ



2-3



2-4

第3室 COLORS

写真が発明された最初期から、色彩がないことは写真の欠点のひとつと考えられてきました。苦心の末に獲得された色彩によって、写真家たちの表現は花開きます。第3室では写真の色彩をテーマに、本展を担当する学芸員それぞれが選んだ作品をご紹介します。

[企画] 石田哲朗、遠藤みゆき、山崎香穂、^{チイウ ユーシジョン} 邱于瑄



オノデラユキ《No.CO-2》〈12 Speed〉より
2008年 インクジェット・プリント

第4室 虚構と現実

1960年代から70年代にかけて、従来の芸術表現にとらわれず、思想や意味に焦点をあて、新たな芸術形式を提起したコンセプチュアル・アート（概念芸術）は登場しました。第4室ではコンセプチュアル・アートの影響を受け、現実と虚構の境界を追求しながら、演劇的に構築された写真（ステージド・フォトグラフィ）、および映画と異なるほかのメディアに関連させて、様々な実験的な手法を用いたビデオ（映像）の作品群を考察します。

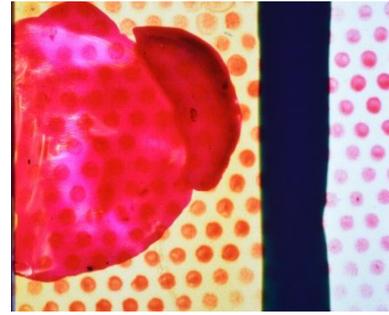
[企画] 邱于瑄（展覧会実績：「恵比寿映像祭 2025」、「恵比寿映像祭 2024」）



4-1



4-2



4-3



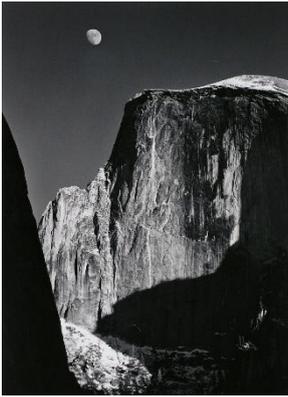
4-4

4-1：アーウィン・オラフ《Auf dem See》〈Im Wald〉より 2020年 アーカイバル・プリント©Erwin Olaf Courtesy of KONG Gallery – Seoul, Korea 作家蔵 4-2：森村泰昌《創造の劇場/イヴ・クラインとしての私》〈なにかへのレクイエム〉より 2010年 ゼラチン・シルバー・プリント 4-3：レン・ライ《カラー・ボックス》1935年、シングルチャンネル・ビデオ ©The Len Lye Foundation 4-4：シンディ・シャーマン《#58, 1980》〈アンタイトルド・フィルム・スティル〉より 1980年 ゼラチン・シルバー・プリント ©Cindy Sherman

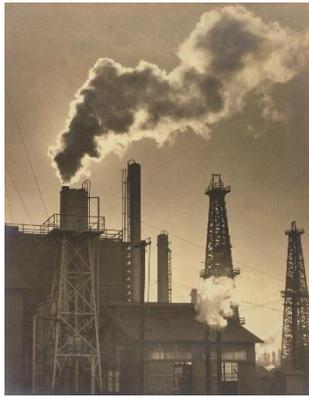
第5室 ヴィンテージと出会うとき

第5室ではフィジカルな実体を持った「写真作品」について考えます。デジタル時代では「写真を焼く」という感覚や「モノとしての写真」の体験は失われつつあります。しかし写真の発明以来、作家たちは写真制作の完成形をプリント、つまり物質化されたイメージだと考えてきました。「vintage」（ヴィンテージ）という言葉を手がかりに、ここでは年代モノ、一点モノがもつ「本物の」魅力とは何なのかを探っていきます。

[企画] 石田哲朗（主な展覧会実績：「TOP コレクション 時間旅行」（2024）、「野口里佳 不思議な力」（2022）、「あしたのひかり 日本の新進作家 vol.17」（2020）、「内藤正敏 異界出現」（2018）、「山崎博 計画と偶然」（2017）ほか）



5-1



5-2



5-3



5-4

5-1：アンセル・アダムス《月とハーフトーム、ヨセミテ渓谷、カリフォルニア州》1960年 ゼラチン・シルバー・プリント ©The Adams Publishing Rights Trust.
 5-2：河野浅八《煙》1929年 ゼラチン・シルバー・プリント 5-3：浜田涼〈not special〉より 1996年 カラーコピー、アクリル絵具 5-4：山本紉〈Jardin〉より 2002年 拡散転写方式印画

関連イベント

□ 担当学芸員によるギャラリートーク

7月18日（金）、8月8日（金）手話通訳付き、9月12日（金）手話通訳付き 各回とも14:00-
 ※当日有効の本展チケット、展覧会無料対象者の方は各種証明書等をお持ちのうえ3階展示室入口にお集まりください。

□ スペシャルトーク

ゲストをお招きし、アーウィン・オラフ作品の制作背景についてお話をうかがいます。

7月6日（日）14:00-15:30 [日英逐次通訳付き]

登壇者 | Shirley den Hartog (Studio Erwin Olaf ディレクター)、邱于瑄 (当館学芸員)

会場 | 東京都写真美術館 1F ホール 定員 | 190名 参加費 | 無料

※当日 10:00 より 1階総合受付にて整理券を配布します

□ 連続対談 過去と未来をつなぐ

「コレクションの歴史から何を学び、未来に伝えるか」をテーマに、第一線で活躍する写真・映像の研究者、教育者とTOPコレクション展の共同企画を行う当館学芸員による対談シリーズです。

7月25日（金）登壇者 | 石原友明 (京都市立芸術大学芸術資源研究センター 客員研究員)、遠藤みゆき (当館学芸員)

9月19日（金）登壇者 | 野澤豊一 (富山大学人文科学系 准教授)、山崎香穂 (当館学芸員)

各回とも18:30-20:00

会場 | 東京都写真美術館 1F スタジオ 定員 | 50名 (事前申込制) 参加費 | 無料

□ インクルーシブプログラム「手話を交えたQ&Aショー」

耳の聞こえない鑑賞案内人の小笠原新也さんが、鑑賞者を代表して、展覧会の担当学芸員に、出品作品や展示意図などについて質問するプログラムです。

9月7日（日）14:00-15:00 [手話通訳付き]

会場 | 東京都写真美術館 2階ロビー 定員 | 50名 (当日受付、先着順) 参加費 | 無料

※各イベントの詳細は当館ウェブサイトをご確認ください。

出品予定点数 約 185 点 (予定)

展覧会図録

『総合開館 30 周年記念 TOP コレクション トランスフィジカル』

B5 変型 (182mm×240mm) 192 ページ、価格未定、東京都写真美術館発行
編集・執筆：遠藤みゆき、山崎香穂、邱于瑄、石田哲朗 (東京都写真美術館学芸員)

開催概要

展覧会名 (和) | 総合開館 30 周年記念 TOP コレクション トランスフィジカル

展覧会名 (英) | TOP 30th anniversary TOP Collection: transphysical

会 期 | 2025 年 7 月 3 日[木]— 9 月 21 日[日]

会 場 | 東京都写真美術館 3 階展示室

主 催 | 東京都、公益財団法人東京都歴史文化財団 東京都写真美術館

電 話 | 03-3280-0099 ウェブサイト | www.topmuseum.jp

総合開館 30 周年記念特設ウェブサイト www.topmuseum.jp/30th_anniversary.html

開館時間 | 10:00-18:00 (木・金曜日は 20:00 まで、8 月 14 日[木]からの木・金は 21:00 まで開館)

※入館は閉館 30 分前まで)

休館日 | 毎週月曜日 (月曜日が祝休日の場合開館、翌平日休館)

観覧料 | 一般 700 (560) 円、学生 560 (440)、高校生・65 歳以上 350 (280) 円

※ () は有料入場者 20 名以上の団体、当館映画鑑賞券提示者、各種カード会員割引料金

※中学生以下及び障害者手帳をお持ちの方とその介護者 (2 名まで) は無料

※8 月 14 日[木]-9 月 19 日[金]の木・金曜日 17:00-21:00 はサマーナイトミュージアム割引 (学生・高校生無料、一般・65 歳以上は団体料金。学生証・年齢が確認できるものをご提示ください。)

※オンラインで日時指定チケットを購入いただけます。

本展はやむを得ない事情により内容を変更する場合があります。

このリリースのお問い合わせ先

このリリースに掲載されている図版をデータにてご用意しております。掲載をご希望の際は、広報担当までご連絡ください。

* 図版をご掲載の際は、必ず作品キャプションおよびクレジットの表記をお願いします。

* オンライン媒体への図版掲載は作品保護の観点から、長辺 800~1000 ピクセル以下をご利用ください。

* 図版の無断掲載はご遠慮ください。また、トリミング、文字掛け等の加工はできません。

東京都写真美術館 〒153-0062 東京都目黒区三田 1-13-3 恵比寿ガーデンプレイス内

TOKYO PHOTOGRAPHIC ART MUSEUM 電話 03-3280-0034 / FAX 03-3280-0033 / www.topmuseum.jp

東京都写真美術館 管理課 企画広報係 press-info@topmuseum.jp